

'85年《正月》—スピルバーグからの贈り物

かわいくて
頭が良くて
いたずら好き
そして知的で
危険。



スチーブン・スピルバーグ提供

グレムリン

GREMLINS 

主演ザック・ギャリガン

フィービー・ケイツ・ホイト・エクストン・ボリー・ホリデー・フランセス・リー・マッケーン

音楽ジェリー・ゴールドスミス・製作総指揮スチーブン・スピルバーグ・

フランク・マーシャル・キャスリーン・ケネディ・脚本クリス・コロンバス

製作マイケル・フィンネル・監督ジョー・ダンテ

 AMBLIN
ENTERTAINMENT

テクニカラー® DOLBY STEREO
IN SELECTED THEATRES

ワーナー・ブラザース映画 A WARNER COMMUNICATIONS COMPANY

FROM WARNER BROS 
TM & © 1984 Warner Bros. Inc. All rights reserved.

*すべての子供たちと、子供の心を失わない大人たちのために—スチーブン・スピルバーグ

グレムリン

製作総指揮スチーブン・スピルバーグ ■ 監督ジョー・ダンテ



ザック・ギャリガン
主演 フィービー・ケイツ

*85年正月の話題はこの一作に集中！

「E.T.」のスチーブン・スピルバーグ、「ハウリング」のジョー・ダンテという若き2大巨匠が、「トワイライトゾーン」にひき続き、ガッチャリと手をにぎった。

早くから全世界の注目を集めていたこの「グレムリン」は6月8日に全米で公開され、わずか10日間で3480万7149ドル、17日間で5476万6097ドルというワーナー映画史上最大のヒットを記録した。主演のフィービー・ケイツの人気はもちろん、新人のザック・ギャリガンも、そのハンサムぶりで全米でも人気急上昇中。

「インディ・ジョーンズ」の撮影のため、自分は製作総指揮にまわり、最もその手腕を評価しているジョー・ダンテに監督をまかせたスピルバーグだが、時間を作ってはグレムリン撮影現場に顔を見せ、自らエキストラとして映画にも出演している気の入れようだ。

また映画の大ヒットに注目したキャラクター商品も凄い人気で、日本でも10月頃からは市場に顔を見ることになっている。



そして日本でも 早くも話題殺到

■ 読売新聞(USシネマ★ナウ)

楽しさと恐怖たっぷり

「トワイライトゾーン」の第3話を監督したジョー・ダンテの新作「グレムリン」が大ヒットして、いまアメリカはグレムリン・フィーバーといった感じだ。オモチャ屋のショーウィンドーには関連商品がいくつもならべられ、街にはグレムリンのTシャツ姿の子供たちがいっぱい。ちょうど「E.T.」が公開されたうな熱狂ぶりなのだ。

■ 週刊平凡 いま、全米で

「E.T.」をしのぐ大ヒット。
スピルバーグの新作
「グレムリン」は夢と恐怖
のメルヘン

■ 朝日新聞(海外アート情報)

★ 第二のE.T.登場

ジョー・ダンテ監督の「グレムリン」に登場する奇妙な生き物「モグワイ」が、アメリカで熱い視線を浴びている。「ギズモ」と名付けられるこの愛きょうたっぷりの生き物は、ある日、6匹にふえるのだが、新顔は引き裂けた薄い唇から歯をむきだし、見た目は空飛ぶ竜かロブスター。人気があるのは、E.T.のような愛らしさを持つギズモのほう、といつてもドラマの中では、不気味な新顔「ストライプ」も重要。スティーブン・スピルバーグの製作総指揮だけに家族向けのユーモアもあるが、娯楽映画の巨匠ジョー・コーマンの恐怖映画で育ったジョー・ダンテ監督のつくり出す恐怖は悪夢のよう、話題のモグワイ見たさに詰めかけた観客をふるえあがらせている。

(ニューヨーク)



USAマスコミ界も
大絶賛！

■ TIME誌

これはいい、面白い。
観客に震えと微笑み
をプレゼント！

■ NEWS WEEK

“モグワイ”は“E.T.”と“ヨーダ”を合わせてコアラ風に仕上げた、最高に可愛く、心暖まる生き物！いかにもスピルバーグ風。

これが変貌すると、コワくて、イタズラで、ニクッたらしくて面白い—
いかにもジョー・ダンテ風の
モンスターになる！

最高に楽しめる
映画だ！！

8月末現在

興収1億5000万ドル突破！

なんと2700万人以上の人人が見た
空前の大ヒット記録更新中！

12月8日
ロードショウ

凄い人気！特製バッジ付《特別ご鑑賞券》発売中！

これだけは覚えておこう！

グレムリン3大面白情報



約束は3つ…破ると
恐い事が起ころゾ！

ビリーはお父さんから“ギズモ”をプレゼントされた時、3つの注意を守るよう約束しました。

- ①水に濡らしてはいけない。
- ②太陽光線にあててはいけない。
- ③夜中の12時を過ぎたら絶対に食べ物をあげてはいけない。

ところが、次々にこの約束を破ってしまい、大変な事が起ころってましたのです。

- ①の約束を破ると“グレムリン”は細胞分裂して、同じ生物が増えてしまう。
- ②の約束を破ると“グレムリン”は死んでしまう。
- ③の約束を破ると、可愛らしい“ギズモ”は、恐い“グレムリン”に変身してしまう。

最近、約束を守らない子供たちが増えている折、スピルバーグは最高にわかりやすく“約束を守ることの大切さ”を教えてくれます。

もちろん、こんな説教じみたことを度外視して、先づ見て面白いのが一番のプレゼントではあります



“グレムリン”つて何?
ギズモ&ストライプ

「トワイライトゾーン」をご覧になった方は記憶にあると思いますが、第4話、ジョージ・ミラー監督が担当した、ジェット機にとりついた怪物の話、あの怪物が“グレムリン”なのです。第2次大戦中、理由もなく墜落したり、腕の良いパイロットたちが撃墜されたりするのは、きっと空中に怪物が住んでおり、それが飛行機にとりついて、落としてしまうのだ。という伝説が、飛行パイロットたちの間で語られていた。この空中に住む小鬼が“グレムリン”なのである。

この映画では、とあるチャイナタウンで老中国人に飼われていた“モグワイ”という正体不明の可愛い生物が、アメリカ人に飼われて“ギズモ”という名をつけられ、やがて変身して“グレムリン”という怪物になる。どうしようもないイタズラ者だが、どこか憎めないモンスターなのだ。このグレムリンの中のボスが頭がボシマ模様だったので“ストライプ”と名付けられたのである。



モグワイはギズモの
中国名なのです。

この“グレムリン”を製作したのが、《ピラニア》や《レイダース》でモンスターを製作したクリス・ウォラス。

彼は撮影前から“グレムリン”的作に入り、撮影終了日まで様々な表情を持った“グレムリン”を作り続けたという。結局演技のできるギズモが12体、ストライプの方方が14体、ただいるだけ用の足りるグレムリンや、簡単な動きだけできるものを含めると気が遠くなるほどの“グレムリン”を作り続けたという。最も精巧なグレムリン（ギズモの方）は、顔の表情だけで36のケーブルがあり、全身となると60ものケーブルで動かされた。これを動かすのに30人の技術者がとりくんでいるという。その他、手で動かすもの、リモコンで動かすもの、など、映画でご覧になればおわかりのように、まさに生きているような動き、表情が見事に表現されている。

グレムリンの製作費だけで約3億円もかかったが、決して高いものではないはずです。

松竹セントラル (541)
2714

パンテオン (407)
7219

浅草東京クラブ (841)
2327

丸の内ピカデリー1 (201)
2881

東急名画座 (407)
7229

吉祥寺セントラル (422)
(48)
6521

川崎グランド1 (044)
(211)
6125

ミラノ座 (202)
1189

池袋東急 (971)
2727

横浜ピカデリー (045)
(261)
2886

大宮オリンピア (046)
(44)
5496

新宿ピカデリー (352)
1771

上野東急 (831)
6620

相鉄文化 (045)
(0331)

千葉劇場 (0472)
(27)
4591